



## この起こりは緑のカエルから…

これまで、「ITこぼれ話」で、パソコンやITにまつわる様々な話題を取り上げてきましたが、「もっと具体的なノウハウが知りたい!」という読者の皆さんのご要望に応え、今回からは少し趣向を変えて連載します。

題して、『チャレンジIT指南塾』。

これは、薬局でアルバイトをする大学生 舞が、薬局の主人の修一郎が出すITに関する難問を悩みながら解決していくお話です。フィクションですが、ITに関する身近な話題を取り上げて行きます。皆様の日々の疑問の解決にお役に立てていただければ幸いです。

登場人物は…

薬学部の大学生:舞  大学の先輩:大輔  薬局の主人:修一郎  料理店の親父:通称“仙人” 

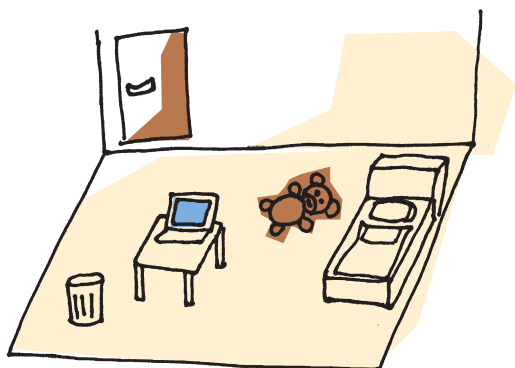
では、お話の始まり、はじまり…

### オリエンテーション

「おっはよう、舞、早く起きろー」毎朝、録音した自分の声で起こされる。ノートパソコンのディスプレイの下にある「F5」と書かれたボタンを押すと、さらに「今日も、一日頑張ろう!」という声が流れるようにセットしてある。このパソコンの声に励まされて低血圧ぎみの舞の一日が始まる。

舞は、P大学薬学部の1年生。今日は、大学のオリエンテーションの日だ。小さい頃から近所の薬局で働く白衣を着た薬剤師さんに、あこがれていた。いつかは、自分も、あんな風になって、みんなの役に立ちたい、と思っていた。

白を基調にした10畳のワンルームのアパートに家具らしいものと言えば机とベッドだけ。机の上にはノート



パソコンが置かれている。これ一台で、テレビを見たり、新聞を読んだりしている。iPodを入学祝いでもらったのでCDプレーヤーも持っていない。iPodは、どこでも音楽を聞いたり、ビデオを見たりできる、手のひらサイズの小さな機械で、友達の多くが持っている。電話はもちろん、携帯のみ。部屋の中は、物が少なくてすっきりしている。昔の下宿のイメージからは程遠い。

とはいえ、舞は案外レトロ趣味だ。先日、インターネットを見ていたら、薬局のカエルのマスコット人形の写真を集めたホームページを見つけた。そんな古めかしい薬に関するグッズに、なぜか心惹かれてしまう。

今朝、パソコンでニュースを見たあとにまた、そのホームページを覗くと大輔という人の書きこみがあった。

「P大学の薬学部に通っています。私もこんな薬局のおまけが大好きです」

自分と同じような趣味を持った人がP大学にもいるんだ、と思った。



オリエンテーションは、学内のコンピュータシステムの話が中心だった。充実したホームページが用意されていて、システムの目玉である、自宅から好きな時間に講義が受けられるオンデマンド授業の説明に大

半の時間が費やされた。最後に、厳重にノリ付けされた封筒が配られた。各人の学生番号とパスワードが入っているという。

この8桁の学生番号が大学のシステムにアクセスするためのID(識別)番号にもなっていた。パスワードは、大学で使うロッカーのカギのようなものだから厳重に管理するように、と説明を受けた。ID番号を知っていてもパスワードが分からなければ使えない。ニセ学生はお断り、という仕組みと考えると分かりやすい。

舞は帰宅後、さっそく自宅のパソコンから大学のホームページ内にある学生専用のページにアクセスしてみた。オリエンテーションでもらったIDとパスワードを入れると、

「舞さん、P大学薬学部のWebキャンパスへようこそ!」という画面が出てきた。



パソコンから舞さんと呼ばれて始めはドキッとしたが、これでP大学に入ったんだ、という実感が湧いてきた。履修科目の選択や欠席の連絡などが全て、このホームページから出来るようになっていた。

色々なページを見ていると、「みんなの広場」という掲示板があった。掲示板と言うのは、誰でも書きこんだり読んだり出来る、ホームページの中のメモ帳みたいなもので、「茶道のサークルに入りませんか」とか、「実験用の白衣を譲ります」とか学生の間での情報交換に使われていた。

その中に、「アルバイト募集。薬局実務を体験しながら、お小遣いを稼ごう!」という書きこみがあつた。

差出人を見ると、どこかで見たことのある名前だった。今朝、薬局のマスコットを集めたホームページにコメントしていた大輔だった。

「薬局の実情が見られて、バイト代も入るなんて、ちょっとラッキー。しかも、趣味の合いそうな大輔さんの紹介だし。いいかも」

舞は、すぐに大輔にメールを送った。

## 修一郎との出会い

大輔のおじは、P大学の近くで薬局を経営していた。大輔は、休みの日になると、“勉強”の名目でお店のトイレ掃除、OTC薬からマスク・包帯までもろもろの品の陳列などの仕事をまかせられていた。「みんなの広場」に書きこみをしたのは、3年生になり、そろそろ就活の準備も考えねばならないので、助っ人を探していたからだ。

だから、メールを見て早速、おじさんの修一郎に舞を紹介することにした。

翌日、面接のために舞が薬局を訪ねると、店頭には緑色をしたカエルの首振り人形が置いてあつた。生来ものおじしい舞、まずは、その話で修一郎と盛り上がった。やがて、大輔の書きこみを見た例のホームページの話から、いつの間にかパソコンやインターネットの話題になり、修一郎は、ついていけなくなった。

「舞さんは、コンピュータに詳しいのかい?」

「え?まあ、フツーに使えるだけのことですよ」

修一郎は、戦後生まれの団塊の世代。父親が始めた薬局を継いでいる。子供たちは、何年も前に独立して、それぞれの道に進んでいる。理科系の出身には違いないが、パソコンが出始めたときにBASICというプログラム言語をマスターしようと自己流で挑んで挫折し、それがトラウマになっていた。

友人の勧めで最近、高価なパソコンを一式揃えたが、レセプトの請求ぐらいにしか使っていない。それ以外は、ほとんどホコリをかぶったままの状態だ。妻は、掃除のたびに「このパソコン、もっと使い道ないの?」とぶつぶつ言う。内心、一矢報いたいと思っていた。

舞の話聞きながら、そのトラウマがうずいた修一郎だったが、そのとき。「!」…ある考えがヒラめいた。「よし、合格!」

さて、舞がアパートに帰ってパソコンの電源を入れると大輔からチャットが入った。チャットというのは、パソコンを使って文字で電話の様におしゃべりが出来る便利なツールだ。

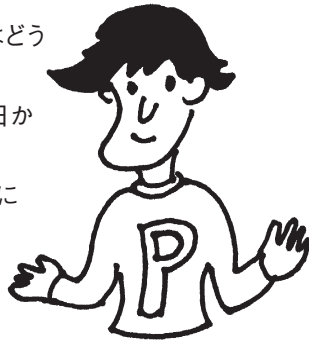


「修一郎おじさんとの話はどうだった？」

「OKでした。今度の土曜日から来てくれて」

「良かったね。じゃ、一緒に行こうよ。薬局のカエルの前に9時に集合ってことで」

「りょうかいです！」



修一郎は二人になったタイミングを見計らって話し始めた。

「舞さんには、折り入って頼みたいことがあるんだ。実は、このパソコンのことなんだが…」

調剤室の片隅に置いてあるパソコンラックを指さした。きれいなカバーがかけてあって、見るからに使っていない感じだった。

初めてのアルバイト

土曜日の朝、先に着いたのは大輔だった。緑色のカエルの人形の隣には、十円玉で動く子供の乗り物が置いてあった。昔からある薬局には、何でもこんなものが置いてあるのか不思議だった。そんなことを考えていると舞が走ってきた。9時を少し過ぎていた。

「ごめなさーい、遅くなっちゃいました」

「おじさんは時間に厳しいよ。今日はいいけど、これからは気をつけてね」

「はーい」舞はぺこりと頭を下げた。

騒ぎを聞きつけて修一郎が出てきた。

「遅刻常習犯の大輔にしては、ずいぶん早いじゃないか」

大輔は舞の方を見て舌をだした。

「仕事の内容を話すからとにかく中に入って」

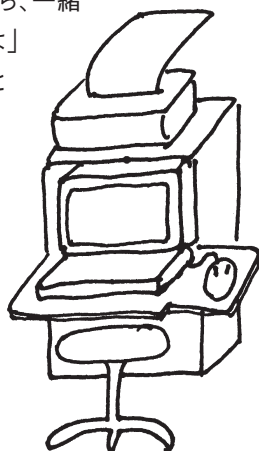
三人は、シャッターの閉まった薬局のソファーに腰をかけた。

「薬局の仕事の詳しい内容は大輔から聞いて。それほど、難しい仕事じゃないから、一緒にやりながら覚えるしかないよ」

ずいぶん、アバウトな人だと舞は思った。でも、少し気が楽になった。

その時、大輔の携帯が鳴った。

「先輩からだ。ちょっと電話してきます」大輔は外に出ていった。



「インターネットで公開されている便利な薬剤師向けの情報発信サイトがあるという話を聞いたんだが、このパソコンで見れるかね？」

パソコンにはプリンタが繋がっているだけだった。

「新しいパソコンなんで、大丈夫だと思いますよ。でも、ネットワークで外とつなげないとダメだと思うんですが…」

「電話なら、ここにあるよ」

ダイヤル式の古い黒電話が台の上に置いてあった。

「こ、こんな古い電話機、まだ使っているんですか？」

「壊れないから捨てられないんだよ」

「まかせて下さい。何とかなりますよ」

舞はきっぱりと言い放った。



そうは言ったものの、舞はパソコンの中身は、ほとんど分かっていなかった。ましてや、インターネットの仕組みなんてチンプンカンプン。車の運転が出来るからって、車を組み立てられるわけじゃない。アパートのインターネットの設定は不動産屋さんがやってくれていたものだった。でも、面接でコンピュータに詳しいとアピールしてしまった手前、分からないとは言いくかった。

(どうしよう)

舞は内心、冷や汗ものだった。

“仙人”登場

大輔が戻ってきた。

「舞、少し早いけど昼飯食いに行こうよ。うまい魚を食わせてくれる店があるんだ。魚、大丈夫？」

「好物です!」  
薬局からP大学の方に5分くらい歩いた所の目立たない雑居ビルの前に、手書きで「魚心」と書かれた小さな看板がでていた。

「シブい店を知っているんですね」

「先輩に教えてもらったんだ。ここの焼き魚定食は絶品だね。特に金目鯛は油が乗っていて本当に旨いよ。でも、魚を焼いている親父さんがちょっと変わってるんだ」

「どんな風に?」

「見た目からして仙人みたいなんだ。噂によれば、以前は、どこかのコンピュータ会社でエンジニアをしていて、とても優秀だったそうなんだ。そんな人が、どうして魚を焼いているのかは謎。しかも、かなりの頑固者で、急かせる客は平気でどなりつけるんだよ」

「ふーん。ミステリーですね」

店の入り口は狭いが、中は思ったより広かった。厨房を取り囲むようにカウンター席があり、奥が座敷になっていた。客はまばら。

目の前で、その“仙人”が魚を焼いていた。頭は少し薄くなっていて、立派な顎ひげを蓄えている。ひげに白いものが混じっているが、立ち振る舞いからすると、案外若いのかもしれない。

二人がカウンターに座ると、チラッと顔を見て無言で魚を、素早くひっくり返した。

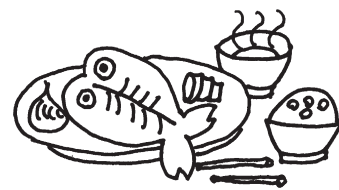
奥さんらしい人がお茶を持って注文を取りに来た。

「今日は、金目ある?」

「良いのが、入っていますよ」  
奥さんは愛想が良い。



「それ、お願いします」  
「私も、同じで」



「金目、二つ」

厨房の仙人に合図を出した。あうんの呼吸というのだろうか、動きに無駄がない。

仙人は、ていねいに紙に包まれた魚を取りだして、料理にとりかかった。これから焼くのため確かに時間がかかりそうだ。

「相談があるんです」

「もう、問題発生?」

「そうじゃないんですけど、さっき大輔さんがいないときに、おじさんから仕事を頼まれたんです」

「どんな仕事?」

「パソコンの仕事なんです」

「僕には恥ずかしくて聞くに聞けないんで、君に振ったんだな」

「あのパソコンをインターネットにつなげて欲しいって言うんです。ネットワークが必要だって言ったら、古い電話機を出してきたんです。あんな古い電話でもつながるのでしょうか」

「大昔のぐるぐる回すダイヤル式のやつだろう。先代から使っていたものだよ。あんな古いのじゃダメじゃない? 光とか引かなければ無理だと思うよ」

「私も、そんな感じはするんですけど・・・」

すると、厨房の中から声がした。

「出来るよ」

意外な声の主に、二人は顔を見合わせた。

【次回につづく...】

IT用語  
レスキュー隊

パソコン雑誌や、新聞を読んでいますと、意味が分からないIT用語がたくさん出てきます。ITの世界の進歩が速すぎて、一般用語に咀嚼されていない言葉たちです。そのような用語をトリビア的に解説してみたいと思います。酒席などでITについての知ったかぶりにお使いください。

【ア】

・アーカイブ

NHKアーカイブズという深夜番組がありますが、そもそも、記録や資料を大規模に貯蔵するという意味です。ITの世界では、容量の大きな分割されたファイルの一つにまとめて圧縮することを言います。電子メールで何枚もの写真のデータを送るのは、かなり手間のかかる作業です。そんな時は、アーカイバというソフトを使って小さく一つにまとめることができます。「このファイルをアーカイブして送っておいで」というように使います。

・アーキテクチャ

元々は、建築関係の用語です。コンピュータのシステムを作る場合も、ハードウェアやネットワークという土台を作って、その上にWindowsやMacOSなどのオペレーティングシステムを乗せて、更にワードやエクセルというアプリケーションソフトを構築するというように、ビルを建てる時と同じような手順を踏むことから、コンピュータの基本設計のことをアーキテクチャと呼びます。通信の世界では、7階層に分けて設計をするので、ネットワークアーキテクチャなどという呼び方もあります。

・アイコン

アイコンとも言い、キリストの肖像など、どこかに宗教的な匂いがする言葉です。コンピュータの操作をするための部品や機能を分かりやすい絵文字にしたものを言います。フォルダやゴミ箱の形をしたアイコンをマウスでクリックする操作方法を普及させたのはアップルです。CEOのステイブ・ジョブズが若い頃、インドを放浪していたことは有名ですが、曼陀羅などのシンボルからヒントを得たのかも知れません。

・アウトソーシング

多用化するニーズに対応しライバル企業との競争に生き残るためには、ITの導入が必須になってきました。コンピュータが

社内に導入されると、それを管理する人や物、サーバを置くスペースなどの問題が出てきました。このコンピュータの運用や定型的な仕事は外部の専門の企業にまかせるという考え方がアウトソーシングです。最近では逆に丸投げした業務を社内に戻す、インソーシングという言葉も出てきました。

・アカウントビリティ

この言葉は、個人情報漏洩の対策を行うマニュアルの中などで良く目にします。通常は、説明責任という日本語が当てられています。情報漏洩は、日常茶飯事になってしまいましたが、最初は、かなり神経質になっていました。事件を起してしまった企業のトップは、お客様にその原因と対策を説明する社会的な責任があります。アカウントビリティが果たせなければ経営者としては失格です。

・アクセス

分かったようで分からない言葉の典型でしょう。ホームページへアクセスしてください、とか、このネットワークへのアクセス制御、という使い方をしますが、アクセスを日本語で何て言うのか聞かれると、はたと困ってしまいます。一般的には、会社へのアクセスは地下鉄をご利用下さい、というように使われます。見たり触ったり近づいたりするという意味です。「あなたには、アクセス権がないわ」と言われたら振られたことなんでしょう。

・アスキー

英語ではASCIIと書きます。この意味を誰かに聞かれたときに、American Standard Codeまで覚えていて苦し紛れにIIを2だと言ったことがあります。それじゃASC1もあるのかと聞かれて困ったことがあります。正確には、American Standard Code for Information Interchangeの略です。アメリカ規格協会が定めたもので、全てのコンピュータで使われている文字コードの標準です。

・アスタリスク

「\*」このマークがアスタリスクです。ITの世界では、任意の文字列という特別な意味をもっています。はっきり分からない文字を\*で表します。Googleなどではワイルドカード検索と言って、これを使うと便利です。たとえば、一部が分からない江東区〇〇研修センターなどを調べるときに、「江東区\*研修センター」で調べることが出来ます。江東区医療研修センターや江東区お好み焼き研修センターなどが出てきます。この時に使う\*は半角です。

・「@」アットマーク

アットマークは、電子メールが普及する前は、商用記号として使われていて@300円と書くと同価300円という意味でした。1970年代になって、「at」の意味として電子メールアドレスに使われました。社内メールでは、「廣瀬@本社」などという書き方も行われています。掲示板で「名無しさん@お腹いっぱい」というのは匿名のことです。今ではインターネットを象徴する文字になっています。

・アップル

IT業界では、iPodで一躍有名になったパソコンメーカーのアップルコンピュータを指します。なぜ、この会社の名前がアップル(林檎)なのかという理由は、社長のジョブズが肉食主義者でリンゴ好きという説と、ビートルズの大ファンだったという説があります。リンゴのマークはなぜ欠けているか、それはかじった歯の跡というのが定説です。「かじる」を意味するBiteと情報の単位のByteをかけたネーミングだと言われています。アップルは何かと話題を提供してくれる面白い会社です。

・アナログ

パソコンやデジタル機器に疎い人が「俺は、アナログ人間さ」といじけて言うことがあります。今の世の中、テレビも電話も何でもデジタルになり、アナログは遅れているというイメージになってしまいました。しかし、腕時計や車のスピードメータは昔ながらの針がついたアナログ方式が主流です。アナログは、直感的にすばやく物事を捕らえるのには適した方式です。アナログはアナロジーから派生したものでより人間的とも言えます。アナログは不滅です。